

(郷土) 宮崎小学校 3年

宮崎茶に学ぼう — 「和紅茶でおもてなし」の実践を通して—

5月～12月(46時間)

1 ねらい

3年生の総合的な学習のシンボル単元として、今年度宮崎茶に関わる学習をすることになった。昨年生活科の「町たんけん」で、学区には有名なお茶屋さんがあることを知っていた。また毎年5月上旬に学校茶を作るための「茶摘み会」を行ったりしてきた。9月には、地域のお年寄りとの交流「みやざき敬老まつり」で学校茶を出してきた。子供たちにとって宮崎茶は身近な存在ではあるが、お茶に対する詳しい知識はあまりない。地元の産業であるお茶に関心を持ち、お茶についての知識を持ったり、おいしいお茶ができるまでの様々な工夫や努力を学んだりして、宮崎茶の良さを知り表現できる子どもになってほしいと願った。そこで、社会の単元「わたしたちのくらしと人々の仕事(お茶を作る)」と関連させて学ばせ、地域の方々とふれあい活動をすることで、宮崎茶に愛着を持つ子どもが育つだろうと考えた。地域に根差す宮崎茶の良さや特徴を知り、作る人の思いや願いを考えることで、ふるさと宮崎を大切に思う気持ちを育てたい。

2 実践の概要

(1) 町探検と全校茶摘み会



広がる茶畑



白地図づくり



お年寄りと茶摘み会



一芯二葉はここ

学校の近くの2つの町探検をした。山に囲まれ自然の多い宮崎学区は、田んぼは少なく数件の商店と家と畑があり、その畑の多くは茶畑であった。子供たちは、一面に広がる茶畑を見てびっくりした。その後、探検したことを白地図にまとめると、学区3地区の中でも宮崎地区に茶畑が多く、昔からこの地区ではお茶作りが盛んであったことが分かった。5月13日、地元のお茶屋「宮ザキ園」の話聞いた後、学区のお年寄りと一緒に全校で「一番茶」の茶摘み会をした。子どもたちは、お茶の木の「一芯二葉」の部分摘み取り、葉が柔らかく、新茶になる部分だと知った。6月26

日の下山小学校・夏山小学校・宮崎小学校の小規模校3校が集まる集合学習では、宮ザキ園で「二番茶」の茶摘み会をした。宮崎小学校の子は、茶摘み会の経験を生かし、「これが一芯二葉、この部分の葉をつむんだよ。」と言いながら積極的に活動することができた。

(2) 日本茶の味比べ・外国茶の味比べ



日本茶8種類



外国茶(紅茶5種類)

7月8日、家にあるお茶を持ち寄って日本茶の味比べをした。その結果、和紅茶が一番おいしくて飲みやすいことを見つけた。和紅茶を知らない人が多いことにも気づいた。そこで、子どもたちは、9月の「宮崎敬老祭り」で地域の人たちに和紅茶を知ってもらったり、宮崎のおいしい和紅茶をのんでもら

ったりしておもてなしをしたいと願った。さらに、外国のお茶も知りたくなり、5種類の

外国茶（紅茶）の味比べをした。宮ザキ園が参加している2016年徳川家康公顕彰400年記念事業「三河紅茶街道試飲ワークショップ」を知り、自分で紅茶を入れる体験をした。日本茶と同じように、葉の形・お茶の色・におい・味を調べると、外国のお茶には苦みが強いものがあり、砂糖をたくさん入れて飲む紅茶があることを知った。紅茶に合う茶菓子を工夫すれば、おいしく紅茶を飲むことができると分かった。

（3）「みやざき敬老まつり」—和紅茶でおもてなし—



3年生の和紅茶屋



「お茶を飲むと、かぜをひきにくくなるよ。」

日本茶や外国茶の種類やおいしいお茶の入れ方、和紅茶の入れ方などをインターネットやパンフレットで調べ画用紙にまとめて掲示した。宮ザキ園で作っている全種類のお茶を展示して宮崎茶の紹介をした。9月13日、みやざき敬老まつり当日。170人くらいの人があると聞いていた子どもたちはとても緊張をしていた。和紅茶の良さを伝えながら和紅茶と饅頭を出した。何回も出すうちに自信が付き、進んで呼びかけをして笑顔で和紅茶を出すことができた。約1時間で140人におもてなしをした。子どもたちは達成感と満足感でいっぱいだった。そして「全校のみんなにも和紅茶を飲ませてあげたい。」という願いを持った。

（4）宮ザキ園の梅村さんに聞こう 9月26日

お茶作りについて宮ザキ園に取材をした。子どもそれぞれが知りたいことを「もの・人・こと」にまとめて質問をした。どんどんメモをすることで、たくさんの情報を手入れることができた。お茶の木のこと・お茶屋のこと・梅村さんの思いや願いなど詳しく知ることができた。宮ザキ園は140年続くお茶屋さんで、ペットボトルの「岡崎茶」は「宮崎茶」だった。梅村さんは、人のつながりや人の輪、日本文化を大事にしたいという願いから和紅茶の「和」を「わ」にしたことなど、子どもたちは知ることが一層楽しくなった。

（5）和紅茶で全校おもてなし 12月2日



3年生の「和紅茶屋」



お茶クイズ50問と新聞

子どもたちは、すべて自分たちの手で和紅茶セットを出しておもてなしをしたいという思いが強かった。そこで、おいしい和紅茶を入れるための茶葉の量・蒸らし時間を調べた。ストップウォッチを使い、1人茶葉3gで3分蒸らすと良いことが分かった。家でも自分で和紅茶を入れることができると喜んだ。また和紅茶に合う茶菓子も知りたくなり、石原町の「柚子木」に行き、ゆず玉という茶がしを知った。柚子農家が経営する喫茶店で、地元の産業に気づく機会にもなった。最後に「お茶新聞」と「お茶クイズ」を作りまとめとした。

3 実践を振り返って

4月当初3年生6人で学区敬老会に来る約170人をもてなすという課題に対して、総合的な学習と社会・国語・算数・道徳など関わらせる学習にしたことで時間の確保ができた。その結果子どもたちの思いや願いに沿う学習を進めることができたり、お茶についての追求を深めたりすることができた。お茶について調べる・聞く・体験する・発信することなどで意欲が高まった。宮崎茶の良さや産業に気づき、地域に愛着を抱くことができた。